

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【STEAM教育推進校用】

学校番号	29
学校名	富山県立高岡南高等学校

重点課題	STEAM教育の実践による探究活動の発展により、教科横断的課題解決力を身につけるとともに、グローバル人材を育成する
課題設定の趣旨	本校では探究教育とキャリア教育を融合した「SOUTH探究プロジェクト」にて、スクールポリシー「Study: 高みを目指して学ぶOriginality: 新たに創造するUniversality: 真理を探究するTeam : 他と協働するHonesty: 誠実に取り組む」を実現するために、地域や大学と連携した進路設計や探究活動を行い、情報発信力や課題解決能力を育成することを目指している。そこで、地域等の連携に加えSTEAM教育を実践することで課題解決活動を進め、方法を習得する過程においてその力の育成を図り、グローバルな人材を輩出することを目指す。
中長期ビジョンを実現するための今後の重点事項	1 明確な志をもって学び続け、自ら行動して、社会の発展に貢献できる人材の育成 2 地元の大学や自治体・企業に加え、PLIJと連携した「総合的な探究の時間」「理数探究」での発展的な探究活動の推進 3 プロジェクトの持続化および教員のSTEAM教育に対する指導力の向上
実施内容 (具体的に記入する)	<p>(1)アントレプレナーシップ教育型・地域探究による提案型・大学連携による研究型の3つの型を体験させる。 【1学年】 ・アントレプレナーシップ講座・イノベータープログラム講座 (2)企業・自治体や地域と連携し、様々な立場から地域課題を捉え、その解決に向けて教科知識を役立てる取組 (3)地域と連携した探究の組織化により探究活動の持続化をはかる 【1学年】地域探究(探究的な活動Ⅰ) 高岡市と連携し、身近な地域を課題にして探究をすることで、問いの立て方とロジカルシンキングについて学んだ。 ・地域探究連携講座(中間報告会) (4)将来学び続けるためのツールとしての探究の手法について体得させる。 【2学年】大学連携講座Ⅱ(探究的な活動Ⅱ) 富山大学と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験した。富山大学の7系統の講師に研究分野から、探究活動の方向性のアドバイスをもらいながら活動した。 ・富山大学訪問 ・報告会1(中間発表) ・最終報告会:優秀な3班については1/31富山探究フォーラムにて発表した。 ・全体発表会:成果を各教室でポスターセッションにて発表。 ・科学英語講座:理系の理数探究ではさらに要旨をまとめ、英語に訳す技法について講義を受けて学んだ。 【人文科学コース】授業「文化と情報」で実施 自身の発見した課題にデータ分析をしながら解決策を導き出す。 ・台湾の高校生やシンガポール教育省語学センターの高校生との発表会:英語でプレゼンテーションした。その際に本校卒業生がサポートした。 【3学年】主に総合的な探究の時間・理数探究にて実施 ・データサイエンス講座 (5)PLIJや産学官民との連携による特色・魅力ある教育活動の実施 【2学年】研修旅行での分野別学習 ・東京都および周辺の大学や企業で分野ごとの専門的な内容の講義や見学を行った。そのうちの一部はPLIJ事務局に仲介いただき、先進的な科学技術等を学ぶことが出来た。 【3学年】2学年「理数探究」での探究活動を継続 一部の班が探究活動の継続を希望し、企業・大学・県公共機関に協力いただき、課題解決まで内容を進めることが出来た。 (6)地域に公開する成果発表会の開催やWebページによる取組の公開 (7)専門家の指導・助言を受けた授業研究会の開催 探究を持続的に行い自走するための教員研修を実施。県内外の高校、中学、保護者に公開した。</p>
取組の成果 (STEAM教育推進の観点から)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自らの資質能力を発見し、自己決定の元で社会に出ていくことができウェルビーイング教育となる。 ・学校から一方的な依頼ではなく提携先にも利点のあるように配慮し、WIN-WINの関係性を構築できるので、持続的に事業を行うことができる。 ・1学年ではシリコンバレー在住CEOの方から挑戦心や世界観を醸成するとともに身近な問題を創造的に解決する方法を学んだ。 ・2学年ではアカデミック・インターンシップとして大学連携し、世界の中から地域を捉え、俯瞰しながら地域課題を捉える機会となった。 ・人文科学コースではデータ分析による検証を行うことで、情報発信力、実践力や積極性を育てることができた。 ・3学年ではデータから目的に整合した情報を読み解く技術、数理的思考力とデータを適切に活用し課題解決に導く能力、探究力を伸長した。また、人文および理系の生徒が、継続した探究活動で全国賞を受賞し、関西万博で発表することができた。 ・組織化により、教員の負担の軽減が図られる。 ・教員のより高度な知識や思考の研鑽により、STEAM教育の理解と深化ができた。
対象者(学年・人数など)	1学年159名 2学年159名 3学年161名

実施実績	4月	①3学年:データサイエンス講座 4月～6月に実施 ②2・3学年:探究活動のための企業・大学・研究所訪問 ③3学年:人文科学コース 学習支援員(大学生等)によるデータ分析サポート 4月～5月	
	5月	④2学年:27日(火)大学連携講座Ⅱ(テーマ設定)富山大学研究室訪問 アカデミックインターンシップ	1年:イノベータープログラム 2年:大学連携講座Ⅱ
	6月	3年:データサイエンス講座	
	7月	※2学年:大学連携講座Ⅱ報告会1 事業外 1年:探究基礎講座Ⅰ 2年:大学連携講座Ⅱ	
	8月	⑤2学年:大学連携講座Ⅱ・探究的な活動Ⅱ 時期は3月まで (企業専門家・大学講師等による指導 30日) ※2学年:26日(火)大学連携講座Ⅱ報告会1 事業外	3年:データサイエンス演習
	9月		
	10月	⑥1学年:探究リテラシー講座 講師を招聘し、課題設定・ロジカルシンキング について指導・教員研修含む。	1年:探究リテラシー講座 2年:大学連携講座Ⅱ
	11月	※2学年:4日(火)大学連携講座Ⅱ報告会2 事業外	3年:データサイエンス演習
	12月	⑦2学年:人文科学コース ウィンターセミナー(SDGsを通した表現力の向上)	
	1月	⑧1学年:27日(火)地域探究発表会 学習支援員等による指導・助言 ⑨2学年:27日(火)大学連携講座Ⅱ 全体発表会 富山大学教授による指導・助言	
	2月	⑩2学年:人文科学コース 学習支援員(大学生等)によるデータ分析サポート 2月～3月 1年:探究基礎講座Ⅱ 2年:大学連携講座Ⅱ ⑤科学英語講座	⑤大学連携講座Ⅱ1・2年協働プログラム 2～3月
	3月		